

200 東京法学院大学記事 (外国語専修科・英語演説会)

『法学新報』第十五卷五(一七二)号

明治三十八年五月十日

○東京法学院大学記事

○外国語専修科 は英語及び独逸語の二科を設け専ら語学を実用的に教授し兼ねて外交官、判検事、弁護士等の受験準備を為さしむるを目的とし初歩の授業は総て午後六時以後とす独逸語科は既に開設せられ英語科は本日(を以て)授業を開始する
筈なり

○英語演説会 本月六日(土曜日)午後二時より第三講堂に於て開会し第一席廣井辰太郎氏(本学講師)は英語研究の方法及び其利益に付て説述せられ第二席ルース氏(本学講師)は英語を学ふには須く實際的ならざるへからざるを説き氏の採

れる授業方法を述べられ第三席ハリス氏（本学講師）は清国滞在中の所感を述べ最後に高橋一知氏（ジャパントイムス記者）は他国の状態を知り自国の状態を知らしむるは語学に依るの外なし今や英語は最も広く世界に行はるるを以て我邦人は英語を研究するの最も必要なるを述べ其研究方法に付て説示する所ありて約一時間に渉り喝采声裡に演了せられ散会を告げたるは午後五時なりし